

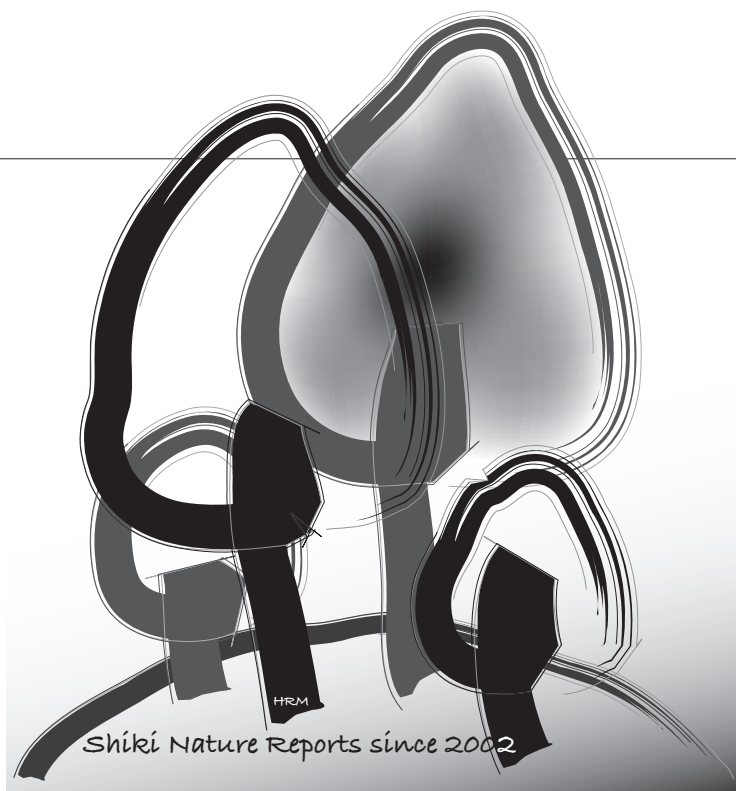
年度初めのご挨拶

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生諸君、無事進級おめでとうございます（世の中、常に若干の例外は存在します）。

受験生が面接試験の時に（本心は別として）、本校の志望理由として必ずあげる『豊かな自然環境』。この「豊かさ」は、何が、どのくらいあるかを知って初めて理解できるものですが、不幸にもそれを理解することなく卒業する生徒が多数を占めます。

本紙は、「豊かさ」に気づいてもらうための試みとして発行され続けてます（すでに8年目に突入しました）。豊かさに気づけぬよりは気づけた方が良いでしょう。自身の力で、その眼を養ってください

(Miyahashi)



「サクラ」と言われるとみな同じに見えてしまうが…【サクラの分類】

Cover Story

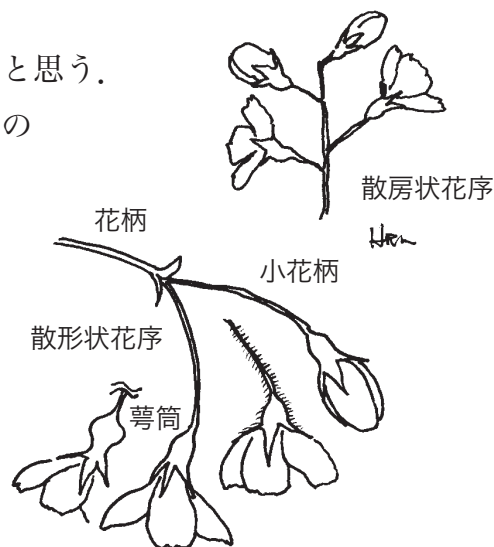
本校には何種類もの「サクラ」があり、半年は桜の花見が楽しめる5年ほど前の『四季 - 志木』に書いた。しかし、サクラと言われるとほとんど皆同じに見えてしまう。どれが『ソメイヨシノ』でどれが「カワヅザクラ」か。そもそも園芸品種も含めると600種以上あるサクラの（国内の自生種は約10種）どこを見て区別するのか？

今回はその『どこを見るか？』について簡単にお話ししようと思う。

結論を言うと主に、サクラは花の枝へのつき方、花びらと萼の特徴、そして葉の特徴をもとに主に分類される。

本校で（…というより日本国内で）最も個体数の多いソメイヨシノを例に、その特徴を『強調』して書いてみよう。

ソメイヨシノは1ヶ所からいくつもの花柄が出る『散形状花序』で、『くびれ』が小さい（大きいものもある）萼筒には『毛』が多く（少ない or 無毛のものもある）、『花柄』が長く伸び（種によって長さは異なる）、『花卉（=花びら）』は丸く大きい（この形状も種によって異なる）。ぜひ、間近で確認してみてください。



(Miyahashi)

志木の自然[睦月^(1月), 如月^(2月), 弥生^(3月), 卯月^(4月)]

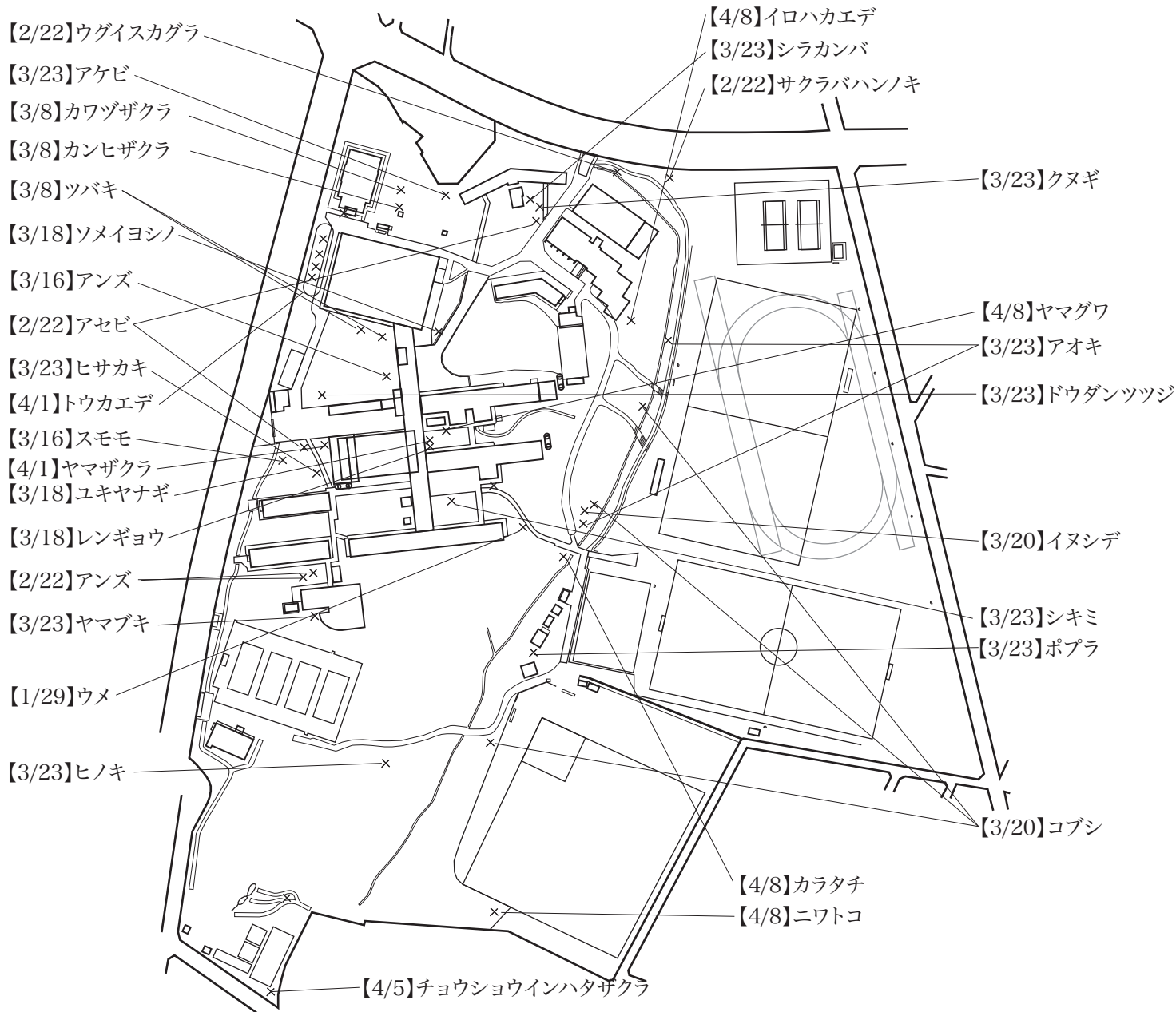
Plants [2010年1月～4月までの開花情報]

2010年1月～4月の気候は不安定で寒暖差が激しかったため、志木でもさまざまな生物の足並みが乱れていたという感を否めない。全般的に開花は昨年にくらべて早まっており、ソメイヨシノは志木高では3月18日に最初の1輪が開花した。去年より3日早く、東京地方の開花宣言(3/22)よりも4日早い。卒業式で満開かと思えたが、その後の天候不順に助けられ、入学式を過ぎた今、ようやく散りはじめた。

Grass

- 29th Jan. 2010 ミドリハコベ
22nd Feb. 2010 ヒメオドリコソウ, ホトケノザ
8th Mar. 2010 ムラサキハナナ, タチツボスミレ, タネツケバナ, ケスゲ, ハハコグサ, ハルノノゲシ, カントウタンポポ
16th Mar. 2010 カタバミ, コハコベ, ハナニラ
23rd Mar. 2010 マルバスマシレ, キュウリグサ, ムラサキケマン, ヘビイチゴ, スミレ, ムラサキサギゴケ, アブラナ, フキ
1st Apr. 2010 トキワハゼ, セイヨウタンポポ, ノボロギク, カラスノエンドウ, オニタビラコ, カタクリ, ヤブニンジン, ハルジオン, オランダガラシ
8th Apr. 2010 キランソウ, イヌムギ, カキドオシ

Wood



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

(Miyahashi)

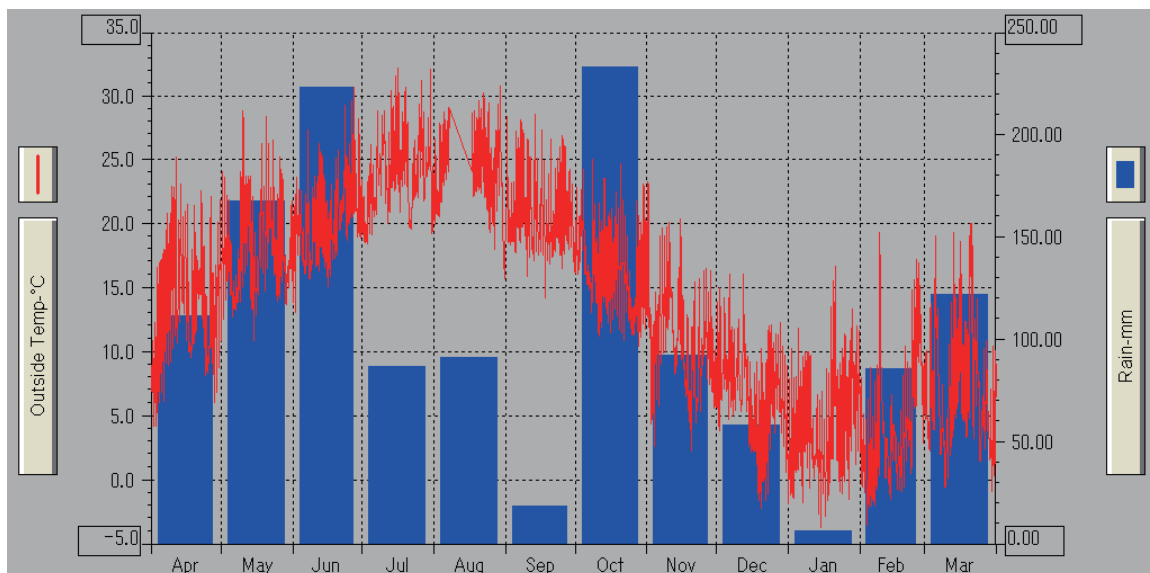
1999 年度より校内で 10 分ごとの気象観測を行っています (自動気象観測)。観測している気象要素は、気温のほか気圧、風向・風速、降水量 (雪は融けた水量)、湿度、太陽放射量、紫外線インデックス等です。グラフは 2009 年度 (2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日) 一年間の気温変化と降水量変化です。8 月は工事関係の停電のため 10 日間ほどの欠測がありましたが、他は概ね良好にデータを記録することができました。

2009 年の夏は猛烈な暑さはありませんでした。このところ、夏になると 40℃ 近くまで気温が上がり猛烈に暑い日がありましたが、2009 年は 35℃ を超えるような猛暑は 1 日也没有でした。(欠測期間中はアメダス「さいたま」の記録を参照したところ、やはり 35℃ を超える日はありませんでした。) もちろんアスファルトの上は灼熱地獄ですが…。

実は 2009 年の中ごろ～終わりにかけてエルニーニョ現象が現れていました。一般に、エルニーニョになると日本は冷夏暖冬の傾向になります。夏は太平洋高気圧の張り出しが弱く、冬は西高東低の冬型がゆるむ傾向にあるわけです。そして夏の高気圧の張り出しが弱いということは梅雨が明けにくい。事実、去年は本州では平年よりも早く梅雨入りし、全国的に遅い梅雨明けとなりました。冬も 12 月の中旬くらいまでは比較的暖かい日が多かったのですが、エルニーニョも終わりをむかえた中旬から北の寒気が大きく南下するようになり、年が開けて今年の 1 月は氷点下の朝も多く、寒い冬だったことを記憶している人も多いのではないのでしょうか。

さて、今年はどうな一年になるのでしょうか？

(Higuchi)



今年の入学式は例年よりタイミングよく満開の桜の中で開催できましたね。式典の新入生宣誓の中で1年F組の星野君が、志木市の指定文化財の木である「チョウショウインハタザクラ」を挙げて、「世界に1つだけの花」という歌詞にもあるような、唯一無二の個性を花に例えた爽やかな宣誓をしてくれました。このチョウショウインハタザクラはその名のとおり、長勝院という寺にある樹齢400年以上といわれる老桜で、雄しべの一部が花びらに変形し、それが旗を立てたように見える、ヤマザクラの突然変異体と言われています。それゆえ世界で1つなのです。

このチョウショウインハタザクラ、実は校内にもあるのをご存知でしょうか？このハタザクラが新品種と確認され、志木市の「市民の木」に指定されたのを記念して、市よりその接ぎ木の苗が2本、2003年にわが校に寄贈されました。珍しい桜でしたのでなるべく目立つ処がよいだろうと、1本は体育館前の牧童像の脇に植樹しましたが、残念ながらこれは根づかず枯れてしまいました。もう1本は、むしろ予備として学校の最も南の端、実習農園の脇に植えました。当時、実習農園が出来たばかりでしたので、記念樹も兼ねてと思い、生物部員たちで植えましたが、スコップが傷んでしまうくらいの石ころ混じりの土で気の毒になってしまう場所でしたが、結局はこちらのほうに根づきました。7年経ち今では4m位に成長し、今年は花もたくさん咲かせています。この花を見ると、すべてが旗を立てているわけではなく、たまにそんな変わった花が見つかるといった感じです。

ちなみに長勝院という寺は平安時代（1180年）ころの創建といわれていますが、現在はその跡地にこの桜が残されているのみです。校内に植樹した苗はいわばこの親木のクローンですから、植樹して7年ですが、細胞年齢としては400歳以上になります。戦国時代からずっとこの志木の地で世の変遷を見てきたことでしょう。

そんなことを思いながら、ソメイヨシノよりちょっと控えめなこの桜の花を眺め、旗の立った花を探してみたいはいかがでしょう？

(Izawa)

カルガモのヒナについて

Notice

経過が順調だとすると、例年通りカルガモが巣箱の中に産卵し、一月後にはヒナの姿を見ることができます。このヒナ達を間近に見るコツは『静かにじっとしている』ことです（大抵の諸君は気を惹こうとして動き回るため結果的に避けられています）。ぜひ、温かく見守ってやってください。

ウサギの飼育担当者募集

今年度もウサギの飼育を手伝って頂ける方を募集します。仕事の内容は、週に1回、好きな時間帯でのウサギの餌・水やりと、小屋が汚れていた時の掃除です。希望者は4月16日の昼休み13時に地学準備室の宮橋をたずねて来てください。

(Miyahashi)

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)